



富士山演劇鑑賞会

No.275 富士山演劇鑑賞会 会報



劇団文化座公演

【原作】乃南アサ『しゃぼん玉』（新潮文庫刊）

【作】斉藤祐一 【演出】西川信廣

出演

佐々木愛
津田二郎
青木和宣
藤原章寛
小川沙織
他

俺はただ、生きてるだけのしゃぼん玉だ……。
どこかに着地しようとするれば割れちまう、
誰かに触れれば壊れて消えてしまおう、しゃぼん玉……。

題字:本橋註園

7月11日（月） ロゼシアター
開場 18:00 開演 18:30 中ホール

◇ 他団体の例会日程 ◇

静岡・清水 7月21日(木) 18:30
(静岡市民文化会館) 7月22日(金) 13:00

沼津・伊豆 7月13日(水) 13:30
(三島市民文化会館)

他団体での観劇を希望される方は、事務局までご連絡ください。

劇団文化座公演

しゃぼん玉

俺はただ、生きてるだけのしゃぼん玉だ
どこかに着地しようとするれば割れちまう、
誰かに触れれば壊れて消えてしまおう、しゃぼん玉

上演時間
2時間30分
(休憩15分含む)

[原作] 乃南アサ『しゃぼん玉』
(新潮文庫刊)

[作] 斉藤祐一 [演出] 西川信鷹

直木賞作家・乃南アサのベストセラー小説「しゃぼん玉」を舞台化。

作品の舞台は壇ノ浦の合戦で敗れた平家の武士たちが、追手を逃れるため流れついた宮崎県の辺境にある椎葉村。あまりに貧しい平家の没落を見た源氏は追討をやめ、椎葉に住み着くことになる。敵同士の源氏と平家が互いに許し合い共存したという伝説を持つ実在の村。

そんな悠久の時間が流れる村に流れ着いた心の闇を持つ少年が、これまで経験したことのない、温かく大きな村人たちの愛に包まれ、見失っていた本来の自分を取り戻してゆく。



〈あらすじ〉

幼い頃から肉親の愛情に恵まれず、周りに誰一人頼る者もない孤独な青年・伊豆見翔人は、生きるために見知らぬ街でひったくりや強盗傷害事件を起こしては、ヒッチハイクの逃亡生活を続けていた。

ある日、彼は山中で怪我を負ってうずくまる老女スマと出会う。家に送り届け、病院に付き添い、スマの家に居候することになった翔人。宮崎県の辺境・椎葉村の小さな一軒家で、翔人とスマの奇妙な共同生活が始まった。

居候になって数日後、古くから伝わる平家祭りの準備が始まり、翔人も手伝うことになり、同年代の黒木美知と出会う。村を離れ、都会に出たがひったくりに会い、心に傷を受けて村に戻ってきたという美知に、自分が犯してきた罪と重ねて苦悩する翔人。

スマの孫だと思い、おせっかいを焼いてくる村人、山仕事を通して人としての生き方を教えるシゲ爺。他人から関心を持たれ頼られ、翔人は徐々に心を開き、人間性を取り戻していく、やがて・・・



椎葉村 仙人の棚田

し
ゃ
ぼ
ん
玉
出
演
者

道代
(みっちゃん)



兼本 菜見子

カズエ



姫地 実加

チエ



高村 尚枝

椎葉 スマ



佐々木 愛

伊豆見 翔人
(椎葉 いずみ)



藤原 章寛

くまさん
(おばちゃん)



小谷 佳加

椎葉 豊昭



津田 二郎

黒木 美知
女



小川 沙織

おばさん
(まあまあのおばさん)



萩原 佳央里

那須 茂忠
(シゲ爺)



青木 和宣

修理屋の男



田中 孝征

椎葉村 —落人伝説の村—

本作の舞台・椎葉村(しいばそん。宮崎県東臼杵郡)は宮崎県北西部の山間部に位置し、日本三大秘境の一つに挙げられる村です。

壇ノ浦の合戦で敗北した平家の落人が日向(宮崎県)の山奥に入って落ち延びたのが村の始まりと伝えられています。やがて隠れ里は鎌倉の源氏に知られてしまい、那須大八郎(屋島で扇を射た那須与一の弟)が討伐に向かいます。

建久二年(1191)、大八郎は隠れ里に到りますがなぜか討伐はせず、この地にとどまります。しかし鎌倉から大八郎に領国下野(栃木県)への帰還命令が届きます。平家の鶴富という女性との間に子をなした大八郎は「男なら下野に参れ。娘ならこの地に残れ」と言い残して去りました。生まれた子は娘。後に婿を取り那須の姓を名乗らせました。

椎葉という地名は大八郎の陣屋が椎の葉で拭かれていたことに由来するそうです。

八百年を経た現在、椎葉村では毎年11月に椎葉平家まつりが開催されています。

●劇団文化座

劇団文化座(げきだんぶんかざ)は1942年に「井上正夫演劇道場」のメンバーだった女優鈴木光枝・俳優山村聡・演出家佐佐木隆らで結成された劇団である。2022年現在の代表は女優の佐々木愛である。

平成20年度(第63回)文化庁芸術祭(演劇部門・関東参加公演の部)大賞を受賞している。

●原作・乃南アサ

1960年東京生まれ。早稲田大学中退後、広告代理店勤務などを経て、88年に「幸福な朝食」で日本推理サスペンス大賞の優秀賞を受賞し作家デビュー。96年に「凍える牙」で第115回直木賞を受賞。また「地の果てから」で中央公論文芸賞を、「水曜日の凱歌」で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。他にも著書多数。映像化された作品も多く、「しゅぼん玉」は2017年に林遣都、市原悦子の出演で映画化されている。

した。華子は、ジョージへの思いを胸に、雪舞う中、一人踊ります。グレイクリスマス(現実)

を雪でホワイトクリスマス(理想)にとの願いが切々と伝わってきました。ジョージはアメリカ人であることの証に朝鮮戦争を志願しました。そして、今再び祖国ウクライナを守ろうと母国へ志願兵としてわたる男たち、愛する家族を残して。日本で「花はどこへ行った？」が再び歌われたしました。人はいつになつたら悟るのだろうか。

作者斎藤憐のすごさを感じました。無駄のないフレーズで奏でられる交響曲さながら、様々なテーマを織り込みながらテンポよく運ばれる舞台。千葉茂則演ずる五條伯爵の滑稽さに笑い、ジョージや権藤の裏半生の人種差別にうなる。岡本健一の権藤はセクシーでステキでした。女は男の危なっかしさに惚れますね。でも私には風呂焚き女はできないと、雅子ははつと現実を選択します。現実を創り出すのは人の業です。ウクライナ侵攻が長引けば、どこかの国は高笑いだとか、軍需産業がもうかつて。百年後、千年後、地球が美しい星でありますように、人が

地球を食いものにしませんようにと祈るばかりです。

(ポニーテール)

芝居が始まる前から、目の前の人のいないステージが素敵で、気持ちが入っていた。この時代に生まれた自分にとつて、うっすらとある記憶と「グレイクリスマス」が繋がっていった。終戦直後、「ひもじい」思いをしてきた大人たちは、食べ物は何もない、粗末にしない、とよく言っていたのを覚えてる。食べるために辛くもたくましく生きる女性たちは今も同じかもしれない。ただ、戦争はあつてはいけない、そんな時代に戻つてはいけないと強く思った。最後の憲法をオルゴールの音色にのせて、いとおしそうに見上げるという演出はすばらしい。

(池田サークル)

運営サークル活動に参加して

運営担当で入会させられなかったのは残念ですが、Tシャツを自分たちも着て楽しく声掛けできました。

三か月くらい活動期間がありましたが、あまり焦らずに声をかけられました。最初は「考えてみます。」とのことでしたので

体よく断られたかなとも思いましたが、なにやらそうでもない様子。例会当日は都合が悪いとのことでしたので今回は入会に到りませんでした。声をかけた以上、責任もつて対応していきます。

(創炎)

搬入のお手伝いをしていつも思う事は、一台のトラックからなんと効率よく荷物の出てくることか！そしてあるべき場所、ポジションが一つ一つピタッと指示されていくことです。組み立てているところは見ることはできないけれど、舞台の幕が開いた時の場面の素晴らしさ！あれはここに収まったのか、こんな風に使われるのか、見ているとても楽しいです。今回は特に長い板のような物を沢山運んだけれどそれが部屋の壁になってあんなに高い位置まで組み立てられたのか、あの重たかった植木たちは、あの窓の外に少ししか見えていないけれど、それで奥行きを見せている等、そんなことも考えて楽しんでいました。時代背景も漠然としなかったことが、納得できました。

(四季の会)

お誘いの初めは「受験学年の孫

がいるから」母の世話があるから「夜は外に出ないことにしている」などのお返事にエネルギーは下降気味でした。それでも何とかしなきゃと先輩に声をかけると「ちようど退職して時間ができたから、文化的なものに触れるのもいいね」と快諾。その後はダメ続きでしたが、高校の同級生から「彼らなら昨年仕事を辞めたよ」の、耳より情報を得て電話するとご夫妻で入会して頂けました。観劇は今まで頑張つて仕事をしてきたご褒美だとのこと。残りの人生を観劇も加えて思いっきり楽しんでいただきたいと思います。(ポニーテール)

コロナ禍で人が集まりにくいという状況の中でも、やっぱり集まらなくちゃサークル会は始まらないと思つた。決めごとをやるだけでなく広く世間話をしながら集まるのも楽しい。そういう中で、「グレイクリスマス」の時代背景に自分の経験も映して、たくさん話して、一緒に作業して、いいメンバーが多いなと思つた。運営サークルになると、芝居の中身を積極的に調べるので、久しぶりに予備知識十分で芝居に入り込めた。

(池田サークル)

劇団民藝の作品「グレイクリスマス」、現在ロシアのウクライナ侵攻の情勢下で心に響く作品となりました。担当14サークルで5回のサークル会では、「来てしゃべって気持ち良く帰る」を心がけ、大いに語り合いました。

サークル会では、制作のこの作品にかけるメッセージ、リーフレットの抜粋、役者のインタビュー記事などを読み合わせ、今こそ観るべき作品だと共感し合い、登場役者の魅力にも期待が高まりました。

また、作品の背景となる戦後の5年間、富士郡下ではどうだったかと当時を振り返り、初めて聞く事実に驚きつつ、いくらかなりと物語を自分たちに引き寄せられたかに思います。

サークル会を経るにつれ声掛けへの熱は上がっていきました。

結果は大会8名に対し、6名の入会でした。クリアーはできませんでしたが、担当2サークルがそれぞれ1名ずつ次回から入会の約束をいただいています。その内の1名の方は、他会場で感激した方の熱い感動を聞いて、それをそのまま友人に伝えたところ入会につながりました。感動こそ、私たちをつなぐ最高の手ですね。

サークル数	69
サークル増	0
サークル減	0
±	0
会員総数	427
入会	6(1.4%)
退会	8(1.9%)
±	-2
例会参加率	86.20%



こちらからも入会のバトンを渡していきましょう。

運営担当サークル	ポニーテール	創炎	BIBA!	カトレアの会	四季の会
	キラキラ星	カンバラ会	夢の会	ミルフィーユ	サクラ
	すうのいえ	すうのいえ2	池田サークル	あけびの実	※

運営担当サークルの皆さんお疲れさまでした

8月27日(土)

富士宮市民文化会館

開場 16:30

開演 17:00

☆座席券配布

7/26(火)~8/5(金)

☆旧会員手帳はいりません



素劇 あゝ東京行進曲
お待たせしました
すでに公演した団体で大好評!!

次例会のおしらせ

No.276 例会

2022年 9月26日(月)

ロゼシアター中ホール

開場 18:00

開演 18:30

ASPイツフォーリーズ公演



原作＝灰谷健次郎(「太陽の子」角川文庫刊)

脚本・作詞＝ラサール石井

演出＝鶴山 仁

音楽＝吉田さとる

挿入歌＝「ここはどこだ」(作詞＝永 六輔／作曲＝いずみたく)

上演時間

2時間30分

(休憩15分含む)



出演

普天間かおり、江端英久、嶋田翔平、藤森裕美他

—— てだは太陽、ふあは子

…………てだのふあはふうちゃんのことなんや
太陽の子ふうちゃんというわけよ。

…………な、オジやん。

(てだのふあ・おきなわ亭にて)

灰谷次郎「太陽の子」(角川文庫刊)より

重要なお知らせ

- ・会費納入 8月会費 7月26日(火)～ 8月5日(金)
『あゝ東京行進曲』
- ・シール配券 9月会費 8月25日(木)～ 9月6日(火)
『てだのふあ』
- ・退会締切 7月20日(水)

サークル集会のお知らせ 7月22日(金) 19:00～20:30

・2024年度の企画について 7月23日(土) 10:00～11:30

富士駅南まちづくりセンター 13:30～15:00

☆事務局閉局 8月11日(木)～8月16日(火)

『しゃぼん玉』担当サークル

スカパン3・やまたのおろち・24COSMOS・6・6・紙風船
ブレンド・JOYRIDE・厚原薬局・サヴァ・BOKE2・BOKE1
CHERRY HILL・スピッツ・夕焼け雲・K・O・招き猫・ミセス・ポテト

★ 例会翌日は、事務局は休みです。

★ 毎月の会費納入は、基本的には
月末の25日～月初め5日 です。

※例会等の関係で変更になることがあります。

★ 例会運営サークルの集いの日程は、担当の
サークルリーダーにお知らせします。

★ 退会する場合は、退会締切り日までに
手帳裏表紙の退会届に必要事項を記入の上、
事務局へ提出して下さい。

※電話やFAX、郵送での退会受付はできません。

※入会1年未満の方と退会締切り日後の退会は
認められません。ご了承ください。

【事務局からのお願い】

不要になったハガキや切手がございましたら、例会会場、または、事務局にお持ちいただくと
大変助かります。それぞれ未使用であればどんなに古いものでも結構です。

書き損じのハガキをたくさんありがとう！

6月1日郵便局にて63円ハガキ181枚と切手46円分に変身しました。

181枚⇒各サークル代表2回分のお知らせを出せます。

これからも、よろしくお願いいたします。

(代表 山崎)

富士山演劇鑑賞会

富士市元町12-26 田中ビル101号

TEL 0545-63-9201 FAX 0545-62-1687

Eメール fj_simingekijou@ab.thn.ne.jp

http://web.thn.jp/fj_simingekijou/

ホームページ [富士山演劇鑑賞会] で

観劇のマナーを守って
楽しく「かんげき」しましょう

- ・携帯電話の電源は切りましょう
- ・開幕前は静かに待ちましょう
- ・お話は上演終了後にゆっくりと
- ・客席での飲食はできません